

平成31年度 第1学年 技術・家庭科指導計画表

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
開隆堂 技術・家庭		技術分野 勝然 達雄 家庭分野 相馬 安希子	週2時間 年70時間

1 教科目標

- (1) ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
- (2) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	生活や技術に関心を持ち、生活を向上するために進んで実践しようとする。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、製作品（製作過程を含む）
工夫・創造	生活課題の解決を目指して、工夫し創造している。
	授業観察、ノート・ファイル等、製作品（製作過程を含む）、定期考査
生活の技能	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
	自己評価票・提出物の内容、製作品（製作過程を含む）、実技テスト、定期考査
知識・理解	生活と技術とのかかわりについて理解している。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、定期考査

3 学習計画

【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考	
4	○ ガイダンス 技術とわたしたちの生活	2	・ 技術が生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考える。	1 学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)	
5	1 材料と加工	2	・ 材料の特徴と利用方法を知る。		
6	・ 材料と加工法		・ 機能と構造について考える。		
7,8	・ 製作品の設計	7	・ 製作図をかくことができる。		
9,10	・ 製作品の製作	15	・ 工具や機器を安全に使用できる。		
11,12			・ 部品加工、組立て及び仕上げができる。		
1	・ 技術とわたしたち	3	・ 技術の適切な評価・活用について考える。 ・ 技術の進展と環境との関係について考える。		
2	2 情報に関する技術	3	・ コンピュータの構成と情報処理の仕組みを知る。		学年末考査 2月12日(水) 13日(木)
	・ ネットワークとモラル		・ 情報モラルについて考える。		
3	・ デジタル作品の設計と制作	3	・ 制作品の設計ができる。 ・ メディアを複合し、表現ができる。 ・ 技術の適切な評価・活用について考える。		

【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	○ガイダンス 1 家族・家庭と子どもの成長	2	・ 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考える。	1 学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)
5	・ 自分の成長と家族 ・ 家庭と家族関係	4	・ 家庭や家族の基本的な機能について理解する。	
6	2 衣生活・住生活と自立	2	・ これからの自分と家族関係をよりよくする方法を考える。	
7	・ 衣服の選択と手入れ	6	・ 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫する。	
8			・ 衣服の計画的な活用や適切な選択ができるようにする。	
9～	・ 布を用いた物の製作	13	・ 日常着の手入れについて理解する。	
12			・ 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫をする。	
1	3 身近な消費生活と環境 ・ 家庭生活と消費	6	・ 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。	
2	・ 家庭生活と環境	2	・ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用を考える。	
2	・ 日常食の調理と地域の食文化	4	・ 自分や家族の消費生活が環境に与える影響や、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践する。	
3			・ 日常食の調理に興味を持ち、安全で適切な調理器具の使い方を身に付ける。	学年末考査 2月12日(水) 13日(木)

4 授業への取り組み方, 準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。1年生では、1学期に技術分野を週2時間、2学期に家庭分野を週2時間学習します。

普通教室での授業のほかに木工室や被服室などの特別教室での実習があります。実習の中では、刃物や火を使うことがあります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気を付けるようにしています。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたずらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

○ 準備物 技術：教科書，ノート(B5サイズ) 家庭：教科書，ノート

・ 実習内容により、エプロンや裁縫箱等が必要な場合があります。

5 家庭での学習方法

調理実習で習得した調理方法を生かした夕食づくりや、製作実習で習得した加工技術を使った小破修理など、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが、学習となります。積極的に家事に参加しましょう。

平成31年度 第2学年 技術・家庭科指導計画表

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
開隆堂 技術・家庭		技術分野 勝然 達雄 家庭分野 相馬 安希子	週2時間 年70時間

1 教科目標

- (1) ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
- (2) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	生活や技術に関心を持ち、生活を向上するために進んで実践しようとする。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、製作品（製作過程を含む）
工夫・創造	生活課題の解決を目指して、工夫し創造している。
	授業観察、ノート・ファイル等、製作品（製作過程を含む）、定期考査
生活の技能	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
	自己評価票・提出物の内容、製作品（製作過程を含む）、実技テスト、定期考査
知識・理解	生活と技術とのかかわりについて理解している。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、定期考査

3 学習計画

【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考	
4	1 生物育成	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育成条件と育成環境を管理する方法を知る。 ・ 育成計画を立てる。 ・ 生物の栽培ができる。 ・ 技術の評価・活用について考える。 	1学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)	
5	・ 生育環境と育成技術				
6	・ 生物の栽培				
7,8	・ 技術とわたしたち	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー変換や力の伝達の仕組みを知る。 ・ 製作品の設計ができる。 ・ 材料の特徴と利用方法を知る。 ・ 工具や機器を安全に使用できる。 ・ 製作品の組立て・調整ができる。 ・ 機器の基本的な仕組みを知る。 ・ 保守点検と事故防止ができる。 		学年末考査 2月12日(水) 13日(木)
9	2 エネルギー変換				
10	・ エネルギー変換の仕組み				
11	・ 製作品の設計				
12	・ 製作品の製作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計・制作ができる。 ・ 技術の評価・活用について考える。 		情報に関する技術の学習は、生物育成の学習と並行して行います。
1	・ 仕組みと保守点検	1			
2	3 情報に関する技術	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計・制作ができる。 ・ 技術の評価・活用について考える。 	情報に関する技術の学習は、生物育成の学習と並行して行います。	
3	・ デジタル作品の制作	2			
	・ 技術とわたしたち	2			

【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考	
4 5	1 食生活と自立 ・ 中学生の食生活と栄養	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣について考える。 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。 	1 学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)	
6 7	・ 日常食の献立と食品の選び方	5	<ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量を知る。 中学生の1日分の献立を考える。 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できるようにする。 		
8			<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な日常食の調理ができるようにする。 食品や調理用具等の適切な管理について理解する。 地域の食文化について理解する。 地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、実践する。 		
9 10 11 12	・ 日常食の調理と地域の食文化	20			
2 3	2 住居の機能と住まい方 ・ 住生活の工夫	6	<ul style="list-style-type: none"> 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫する。 住まいに関心を持ち、課題をもって又は住生活について工夫し、実践する。 		学年末考査 2月12日(水) 13日(木)

4 授業への取り組み方、準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。普通教室での授業のほかに木工室や調理室などの特別教室での実習があります。実習の中では、刃物や火を使うことがあります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気を付けるようにしています。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたずらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

○ 準備物

技術：教科書，ノート(B5サイズ)	家庭：教科書，ノート
-------------------	------------

・ 実習内容により、エプロンや裁縫箱等が必要な場合があります。

5 家庭での学習方法

調理実習で習得した調理方法を生かした夕食づくりや、製作実習で習得した加工技術を使った小破修理など、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが、学習となります。積極的に家事に参加しましょう。

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
開隆堂 技術・家庭		技術分野 勝然 達雄 家庭分野 相馬 安希子	週1時間 年35時間

1 教科目標

- (1) ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
- (2) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	生活や技術に関心を持ち、生活を向上するために進んで実践しようとする。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、製作品（製作過程を含む）
工夫・創造	生活課題の解決を目指して、工夫し創造している。
	授業観察、ノート・ファイル等、製作品（製作過程を含む）、定期考査
生活の技能	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
	自己評価票・提出物の内容、製作品（製作過程を含む）、実技テスト、定期考査
知識・理解	生活と技術とのかかわりについて理解している。
	授業観察、自己評価票・ノート・ファイル等の内容、定期考査

3 学習計画

【技術分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	1 情報			
5	・ 情報通信ネットワーク	3	・ ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知る。	
6				
7	・ デジタル作品の制作	5	・ メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計ができる。	1 学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)
8			・ メディアを複合し、表現ができる。	
9				
10				
11	・ 計測・制御	7	・ 計測・制御の仕組みを知る。	学年末考査 2月12日(水) 13日(木)
12			・ 簡単なプログラムが作成できる。	
1				
2	・ 情報モラル	2	・ 技術の評価・活用について考える。	

【家庭分野】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4 5 6 7 8	1 家族・家庭と子どもの成長 ・ 幼児の生活と家族	3	・ 幼児の発達と生活の特徴を知る。 ・ 子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。	1 学期期末考査 9月17日(火) 18日(水)
9 10	・ 幼児の生活と遊び	5	・ 幼児の遊びの意義について理解する。	
11 12	・ 幼児との触れ合い	4	・ 幼児の観察や幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫する。	
1 2	・ これからのわたしと家族	5	・ 家族又は幼児の生活に関心を持ち、課題をもって、家族のよりよいかかわり方や幼児の生活について考える。	学年末考査 2月12日(水) 13日(木)

4 授業への取り組み方, 準備物

技術・家庭科は、技術分野と家庭分野からなり、それぞれの分野に担当教員がいます。3年生では、1週間おきに技術分野と家庭分野の授業を実施します。

普通教室での授業のほかにコンピュータ室や調理室などの特別教室での実習があります。実習の中では、刃物や火を使うことがあります。怪我を予防し、学習効果を上げるためにも以下のようなことに気を付けるようにしています。

- ・ 特別教室への移動は休み時間中に済ませる。
- ・ 忘れ物をしない。提出物は期限までに提出する。
- ・ ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気付いたことも書き込み、常に振り返りに利用する。
- ・ 道具や機械をいたずらしない。また、使用後はしっかりと片付ける。
- ・ 教え合い、助け合い、わからないことは質問し、授業は常に協力しながら進める。

○ 準備物

技術：教科書，ノート(B5サイズ)	家庭：教科書，ノート
-------------------	------------

- ・ 実習内容により、エプロンや裁縫箱等が必要な場合があります。

5 家庭での学習方法

調理実習で習得した調理方法を生かした夕食づくりや、製作実習で習得した加工技術を使った小破修理など、授業で学んだ内容を実生活の中で実践することが、学習となります。積極的に家事に参加しましょう。